

津山市史だより

2024.10
第23号

目次

- ・部会通信……………2
- ・地名「津山」の成立（下）
前原茂雄……………3～6
- ・美術学講座要旨……7～8



まんどうやま

万燈山古墳出土の陶棺（津山市加茂町歴史民俗資料館にて常設展示中）

土でできた焼き物の棺である陶棺は、美作地域の古墳時代を特徴付ける遺物の一つです。弥生の里文化財センターや津山郷土博物館などでは、常設展で実物を展示しています。迫力のある大きさ、そして興味深い形をしていることもあり、両施設を社会科見学などで訪れる小学生を始め、来館者の目を引いてきました。

平成25年には、弥生の里文化財センターが担当し、郷土博物館を会場として陶棺の特別展を開催しました。図録も発行しましたが、数年前にすでに完売しており、陶棺への注目度の高さが窺えます。

令和5年に発行し、現在頒布中の新修津山市史通史編『自然風土・原始・古代』では、19頁にわたって陶棺について記述されました。ここでは、なぜ美作地域において陶棺が盛行したのか、その謎に迫っています。

まずは陶棺の形や制作技術の系統について分析がなされ、陶棺の成分を科学的に分析する胎土分析の結果など、最新の研究も盛り込まれました。そして山の中における古墳づくりの過程で発生した森林資源の活用などの視点も含めて論じられています。

新修津山市史通史編『自然風土・原始・古代』は、図書館や博物館などでご覧いただけるほか、博物館や市内書店で販売もしています。郵送での購入も可能です。ぜひ一読ください。（東方）

美作学講座

令和6年度第1回 令和6年10月5日

「津山市と周辺地域の地形・地質」

講師…岡山理科大学生物地球学部生物地球学科

教授 能美 洋介氏

今年度第一回の美作学講座は「津山市と周辺地域の地形・地質」と題し、岡山理科大学教授の能美洋介氏にご講演いただきました。

はじめに、大きな特徴として、津山市域は北から中国山地・津山盆地・吉備高原と大きく三つに分かれており、様々な時代の地層が複雑に分布していることが挙げられました。

一つ目の中国山地については、鳥取との県境付近の東側には黒岩高原があり、この辺りの特徴としては玄



武岩の溶岩からなる平らな山が多いことが挙げられました。また、西側と東側で対照的な特徴がみられ、西側には三角形の山が多く基本的には花崗岩から成り立っていて、所々に閃緑岩もあるとのことでした。少し南の加茂地域は人工的な地形が展開していることが特徴です。鉄穴流しによ

る改変地形がみられ、地形図から大規模に行われている可能性が高いそうです。那岐山山系には比高が大きく、どっしりとした山が多い特徴があり、広戸仙では安山岩、天狗寺山には花崗岩、横野滝には花崗岩の熱をうけて泥岩などが牛の角のように固くなったホルンフェルスが多くみられるそうです。

二つ目に、津山盆地の地形的な特徴として、ゆるく南に傾斜する丘陵と平坦地が挙げられました。津山盆地は新第三紀中新世の堆積岩からなる丘陵地でできており、これは「勝田層群」と呼ばれ、西は鏡野町、東は奈義町まで続いています。この層からは海の生き物が多く発見され、津山の丘陵地が海だった時代に砂岩や泥岩が積もってきた地層とのことでした。

三つ目の吉備高原の特徴として、大規模な噴火活動を起こした火山の痕跡が多くみられることが挙げられました。その痕跡は美咲町の亀石まで続いており、よく知られている津山石も、火山が噴火したときに生じた凝灰角礫岩で、火山灰やガラスがたくさん入っているため、正式には流紋岩質凝灰角礫岩と言うそうです。特に、神南備山の石は固いが切り出しやすいことから、津山城の石垣にも使われているとのことでした。

最後に、中国山地・津山盆地・吉備高原は約八〇〇万年くらい前から形成され、現在でも形成が続いているとの結論で講演は終了しました。馴染みの深い津山市域の地形や地質について公聴者も興味深く聞き入っていました。

津山市史だより
第23号

発行：令和6年10月31日

編集：津山市史編さん室

〒708-0824 岡山県津山市沼600-1

津山弥生の里文化財センター内

TEL:0868-22-5820 FAX:0868-24-8414

Eメール:shishihensan@city.tsuyama.lg.jp